

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

内容報告書

団体名：公益財団法人長野県国際化協会

1. 事業の概要

事業名称	外国籍住民が地域支援者との絆を深めながら進める日本語学習支援事業
事業の目的	(1) 本県においては、平成26年より3年に渡り、県が外国籍県民等の自立を支援するとともに日本語能力の向上を図るため、外国出身者や地域の外国籍県民に対して、生活に必要な日本語表現や日本の制度・習慣を伝えるためのバイリンガル指導者の育成に取り組んできたところ、その数は90名余に及んでいる。今後は長野県国際化協会が、バイリンガル日本語指導者や地域の学習支援者等の協力、支援を得ながら、日本語学習の機会の少なかった住民を掘り起し、受講者のすそ野を広げる活動の継続を目指す。 (2) 生活上の会話が可能となった外国人であっても、近隣との交流が疎遠になっている場合が多々見られており、地域住民として今後生活するためには、彼らが地域社会へ溶け込んでいくことが重要である。長野県国際化協会は、地域支援者等の協力を得ながら、地域社会との交流機会の創出を図り、一層生活に密着した日本語を身に着ける機会の設定を目指す。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	(1) 県内には市町村やボランティアグループによる日本語教室が71箇所あるとされるが、多くは支援者の高齢化と人材不足等の課題を抱えている。 (2) 県内に在住する外国人は定住化する傾向にあり、高齢化による医療、介護の問題や、子どもの教育に関する問題等が生じており、日本語でのコミュニケーション能力は不可欠となっている。 (3) 市町村数が77と全国で2番目に多く、日本語教室のない地域も多いことから、日本語学習機会の充実を図るための広域的なネットワークづくりが不可欠である。 (4) 本協会は、県より「生活者としての外国人日本語教育事業を活用した取組」の一部を受託し、3年にわたり教室の運営を実施してきたが、受講生からは、間に行政が入ることで手続きが煩雑になる、教室の雰囲気が堅い、また有識者からは、日本人社会への参画が図られていない、学習者の居場所づくりが必要との指摘を受けた。 これらを踏まえ、日本語学習者のニーズに対応した教室づくりと地域社会への取込みを図り、課題の解消に向けて取り組んでいく必要性があった。
本事業の対象とする空白地域の状況	事業開始時点では、県内の77市町村のうち、42市町村において日本語教室がない状態であるが、当協会は県内唯一の広域の国際化協会という機能性を活かして、一自治体にとられない広域の受講者を対象とした日本語教室の開催が必要であった。今後、近隣市町村や学習支援者と協働して、当該地域での日本語教室の実施に向けて検討の必要性があった。
事業内容の概要	(1) 日本語学習の機会の少なかった外国籍県民に対する日本語教室の実施 県内に在住しているバイリンガル日本語指導者が意欲をもって日本語教室(学習会)を継続的に実施していけるよう、自治体や地域支援者と連携して支援していくことが必要であり、その際には、従来の日本語教室に対して指摘された手続きの煩雑さや雰囲気の堅さ、テーマ設定の工夫の必要等について配慮するよう努めた。 (2) 地域の自治体等日本社会とのつながりの創出 外国籍住民が地域社会との結びつきを持つことにより、様々な体験を経て生活上の知識等を幅広く学ぶことができるので、その結びつきを得る機会として、自治体や支援団体と連携しながら自治体行事への参加を検討した。 また、外国籍住民が自治体行事等で体験した事柄についてさらに知識を身に着けるようフォローアップを図った。 (3) テーマ設定等へのコーディネーター支援 外国籍住民が意欲をもって楽しんで学習会を開催するためには、テーマや会場設定、講師依頼、募集方法への相談や支援等が必要であり、身近な支援者がコーディネーター(アドバイザーも含む)として教室運営等に対して効果的な活動を図った。
事業の実施期間	平成29年5月～平成30年3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	石井 恵理子	東京女子大学現代教養学部
2	西沢 奈緒樹	長野県県民文化部国際課
3	春原 直美	佐久市市民活動サポートセンター
4	佐藤 佳子	NPO法人中信多文化共生ネットワーク
5	丸山 美枝	あづみの国際化ネットワーク
6	白田 咲子	(公財)おかや文化振興事業団国際交流センター
7	湯澤 ちふ美	飯田市公民館
8	賀沢 マリア 祐恵 宮島	佐久市経済部観光交流推進課
9	高見澤 一則	(公財)長野県国際化協会
10		

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年7月25日 (火) 13:30～15:30	2時間	長野県庁	石井恵理子、西沢奈緒樹、春原直美、佐藤佳子、丸山美枝、白田咲子、湯澤ちふ美、賀沢マリア、高見澤一則	1 平成29年度実施計画の説明と検討 2 アンケート方法の検討
2	平成29年11月21日 (火) 13:30～15:30	2時間	県の森文化会館	石井恵理子、春原直美、佐藤佳子、丸山美枝、白田咲子、湯澤ちふ美、賀沢マリア、高見澤一則	1 取組状況の報告と検討
3	平成30年3月16日 (金) 13:30～15:30	2時間	長野県庁	西沢奈緒樹、春原直美、丸山美枝、湯澤ちふ美、賀沢マリア、高見澤一則	1 平成29年度実施結果の報告と検討 2 運営委員会アンケート結果の検討 3 30年度企画案の報告
4					

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	◎長野県との連携のもと事業を推進した。 ◎自治体及び地域支援団体(松本市、駒ヶ根市、岡谷市、佐久市、上田市等の支援団体)と連携し、人材の掘り起こしとバイリンガル指導者等の活用を図り、もって外国籍県民の地域行事への参加を推進した。 ◎運営委員会においては、日本語教育専門家に加え、地域支援団体や外国籍県民等により、地域の実情に合わせた検討を行った。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	◎中核メンバーは運営委員またはコーディネーターとしてこの事業の運営に携わった。 ◎(公財)長野県国際化協会は次の点を留意して事業実施に取り組んだ。 (1)支援団体、自治体と(公財)長野県国際化協会との打合せ ・地域に在住するバイリンガル日本語指導者の状況と日本語教室の開催状況を紹介し、自治体行事(防災行事、出前講座等)、支援団体への相談への協力を依頼し、コーディネーターの出席により、関係機関との調整をした。 (2)教育、防災をテーマとする日本語教室を開催できるよう、(公財)長野県国際化協会が関係機関と調整 ・教育に関する日本語教室の開催に向け、(公財)長野県国際化協会は、コーディネーターとともに講師の選定をバイリンガル日本語指導者等と検討し、地元の教育状況等に精通した講師に依頼できるよう連携を図った。 ・防災行事への参加は、自治体に対して外国籍県民が一般参加できる枠の検討を依頼するとともに、体験型の日本語教室に向けた準備を行った。コーディネーターも外国籍県民の行事参加に取り組んだ。 (3)主要な地域支援者にアドバイザーを委嘱して、バイリンガル日本語指導者が日本語教室を実施する際に、コーディネーターと連携して支援した。
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞									
取組1			楽しく話そう！にぎわい部屋の実施						
	取組の目標		市町村数が多く、日本語教室がない地域が多い本県では、日本語学習の機会に恵まれない外国籍県民が多く、各地域との支援団体と連携しながら事業を継続していくことが重要である。一方で、県が3年間にわたり実施した日本語教室では、行政を通すと手続きが煩雑、教室の雰囲気や硬いとの意見が寄せられたことから、本取組では、学習者が参加したくなる又は参加しやすいテーマによる日本語教室を工夫して、日本語学習の機会に恵まれない外国籍県民が学習意欲を失うことなく、地域の外国籍住民と気軽に継続して交流できる場を目指す。						
	取組の内容		長野県国際化協会は、コーディネーターや各地域の支援団体等との協力を得て、平成28年度に意欲をもって日本語教室を実施しているグループをもとに、10グループ(10地域)の支援を実施した。 また、各教室の企画者が教室テーマを机上の学習だけでなく、趣味等の地域文化の実践学習、生活用品の購入体験、料理教室等、受講者が楽しいと感じるテーマを積極的に設定できるよう、地域コーディネーター等が支援を行い、リピーターのできる日本語教室の企画を促進した。 長野県国際化協会は、県内で活動する外国籍住民の学習者へのアドバイザーを地域の支援者に依頼し、教室の立ち上げや会場の確保等を一緒に関わってもらい体制づくりを進めた。						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		日本語学習の外国籍県民は、趣味等の地域文化の実践学習、生活に係る知識学習、料理教室等の日本語教室を通じて、生活に必要な日本語を自らの体験に則しながら習得することができた。また、地域にとっては、多様な人材、資源の把握が可能になった。さらに、本取組による学習の場づくりを、気軽な交流ができるよう、受講者が楽しいと思えるテーマ設定を工夫することにより、地域との交流を閉ざしてしまいがちな外国人の受講者を掘り起こす効果もあった。						
	取組による日本語能力の向上		子育て等に必要となる日本語や地域の教育制度等を学ぶとともに、日本で生活していく上で必要になる知識や日本社会の習慣、ルールに関する日本語を習得した。						
	参加対象者		来日して間もない者、学習機会に恵まなかった者等				参加者数 (内 外国人数)	504人 (359人)	
	広報及び募集方法		長野県国際化協会のHP、Facebook、メルマガ等での周知募集、バイリンガル指導者や地域の活動者等によるコミュニティなどへの呼びかけ、長野県、市町村、地域支援団体等の広報活動 など						
	開催時間数		総時間 96時間30分(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		各地域支援団体、地域のバイリンガル等指導者、市町村、県 等						
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		117	6	3	1	51	2	13	124
インド(2人)、アメリカ(6名)、ドイツ(5名)、マレーシア(3名)、イギリス(2名)、ペルー(11名)、ボリビア(8名)、エルサルバドル(1名)、スリランカ(1名)、イラン(1名)、ロシア(1名)、台湾(1名)									
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名	
1	平成29年9月9日 (土) 12:00～14:00	2	中野市(講師宅)	15 中:5 印:1 米:2 日:7	日本語を学びながら作物の種まき等の実践	水菜等の種まきの実習と日本語でのコミュニケーションの向上を図った。	六川 くみこ	浦野一二三	
2	平成29年11月25日 (日) 11:30～14:30	3	中野市中央公民館	26 中:2 印:1 伯:6 日:17	日本語を学びながら料理も学ぶ	餃子の調理の実習とみんなでの試食を通じて、日本語でのコミュニケーションの向上を図った。	六川 くみこ	矢口 くみ子 浦野一二三	
3	平成29年9月30日 (土) 14:00～16:00	2	りんご庁舎	13 伯:11 日:2	こどもの将来を考える	日本語が分からない、ポルトガル語が十分にできないなどの悩み事などを、専門講師のワークショップ等を通じて学んだ。	-	脇田 ルリコ	
4	平成29年10月22日 (日) 14:00～17:00	3	飯田市役所C棟	25 伯:18 日:5 不明:2	ゴミの出し方を市役所職員から学ぶ	飯田市でゴミの分別方法等が変更になった機会に新しい方法を担当者から学び、併せて関係する言葉のポルトガル語訳一覧を作成し配布した。なお、学習中は通訳なしで受講した。	-	脇田 ルリコ アマダ・セイオ	
5	平成29年11月10日 (金) 10:30～12:30	2	長野市もんげんぶら座	8 中:6 独:1 比:1	日本語の接続語の使い方を学ぶ	日本語の定例文などの接続語の使い方を学んで、生活で使う日本語レベルアップを図る	伊藤 章子	高見澤 彩	
6	平成29年10月27日 (金) 10:30～12:30	2	長野市もんげんぶら座	8 中:5 独:1 比:1 韓:1	日本語の副詞の使い方を学ぶ	日本語の定例文などの副詞の使い方を学んで、生活で使う日本語レベルアップを図る	伊藤 章子	高見澤 彩	
7	平成29年11月12日 (日) 13:00～16:00	3	松本市松南地区公民館	7 比:7	ロールプレイを使った日本語学習	日本語レベルの異なる者による参加者提案のテーマによるロールプレイを実施したり、SNSを日本語で書いてみたりした。	川上エバンジェリン	百瀬ルビーアン 持山 シヤロン	
8	平成29年9月2日 (土) 13:00～16:00	3	安曇野市豊科公民館	19 伯:4 中:2 比:3 マレーシア:3 ネパール:3	日本の子育て知識と日本語を体験談等から学ぶ	学生時代に来日した者や日本で結婚して子育てを経験した外国出身者の体験談、また、体験者や進学の専門家などへの質疑を通じて、子育て知識と日本語会話の向上を図った。	横山 ルカス 三浦 エウイ 綱島 麻美	傳刀 美香 近藤 由香里 西尾 淳	
9	平成29年11月19日 (日) 9:30～10:30	1	佐久市野沢会館	10 伯:6 中:1 日:1 イ:2 日:1	佐久市の健診制度	健診の申込・受診方法や生活習慣病予防と食生活のバランスなどを学んだ。	賀沢 マリア	土屋 うた 菊原 訓子	
10	平成29年11月19日 (日) 10:30～13:30	3	佐久市野沢会館	11 伯:6 中:1 日:1 イ:2 日:2	身近な材料を使った巻きずしの作り方	ハレの日のための身近な材料を使った巻きずしの作り方を学び、日本語学習のきっかけづくりとした。	賀沢 マリア	土屋 うた 菊原 訓子	

11	平成29年10月22日 (日) 14:00～16:00	2	篠ノ井西中学校国際室	7 中:7	思春期の子どもに対する親のあり方	中学生の子どもを持つ親を対象に、子育てに必要な知識や質疑等の講義を行い、日本語での朗読も行い日本語会話の向上を図った。	山岸 炎	-
12	平成29年11月12日 (日) 10:30～12:30	2	諏訪湖ハイツ	10 中:2 英:1 イ ンドネシア:1 タイ:1 日:5	洋服の洋服について学ぶ	受講者の洋服について日本語で言ってみたほか、事前に用意したフォーマルなどの洋服や靴などの名称を確認した。最後にはペーパー練習問題を実施した。	王 曉慧	浜 歩乃華 白 雪艶
13	平成29年11月19日 (日) 10:30～12:30	2	岡谷蚕糸博物館	13 中:4 インドネシア:1 タイ:1 ベトナム:1 日:6	蚕糸博物館で日本語を学ぶ	蚕糸博物館で、説明を受けたり、実物のカイロやシルクができるまでなどを体験するなど、機会のない経験もし、専門的な日本語も学べた。	浜 歩乃華	王 曉慧 白 雪艶
14	平成29年12月17日 (日) 9:00～15:00	6	あいとびあ (岡谷市)	17 中:2 ベトナム:3 英:1 タイ:3	日本の代表的な料理の作り方を学ぶ	日本の代表的な卵焼き、てんぷら、トン汁、酢の物のつくり方を学び、食事会では外国の手作りデザートや各自が調理したものを提供しあい、共通語の日本語でコミュニケーションを図った。	白 雪艶	王 曉慧 浜 歩乃華
15	平成30年1月22日 (月) 13:00～14:00	1	コージオ・ロゴス	20 伯:20	でんしゃにのります (事前学習講座)	日頃電車を利用しない外国時家庭の親とそのこどもに電車の乗り方、マナー4、交通規則などを日本語で学び、外出必要な持ち物の確認を行った。(事前学習講座)	寺島 順子	-
16	平成30年1月26日 (金) 9:30～14:30	5	JR(広岡～松本間) 松本市美術館 松本市中央公民館	20 伯:20	でんしゃにのります	各自でキップを購入し、電車で松本駅まで乗車し、下車後、近くの美術館で昼食後、中央公民館で昼食会を兼ねてスタッフと学習交流会や日本語でのゲームなどを行った後、再度電車に乗車し、広岡駅まで帰った。	【補助者名】 小林エリカ 広美 畑中 定崑 アラキ ユミ 南坂 政男 松澤 芳晴 玉田 幸 寺島順子	
17	平成29年12月23日 (土) 10:00～12:30	2.5	丸子地域活動センター	8 伯:5 中:1 日:2	やさしい日本語を学ぶ(1)	やさしい日本語で、自分の考えを話す、質問する、人の話を聞く	岡宮 美樹	-
18	平成30年1月20日 (土) 10:00～13:30	3.5	丸子地域活動センター	10 伯:6 ホリビ:1 露:1 ヘル:1 中:1	やさしい日本語を学ぶ(2)	こどもをほめる ～やる気の出るほめ方は～	岡宮 美樹	-
19	平成30年1月21日 (日) 9:00～14:30	5.5	上田市丸子ふれあいセンター	59 伯:15 ヘル:8 ホリビ:7 エルサルバドル:1 9 イ:1 スリランカ:1 イラン:1 中:1 日:24	日本の子育てで知りたいこと、知ってほしいこと	こどもの作文(題目「夢」)発表をベースに、親から日本語又は母国語でコメント等を発表し、講師等からの助言を得る。また、自国と異なる子育てについての苦労した経験談等の発表で意見交換した。	岡宮 美樹 賀沢 マリア 成澤 みつ子	本村 栄治 胡 穎
20	平成30年1月21日 (日) 14:00～17:00	3	駒ヶ根市ふれあいセンター	22 ベトナム:2 タイ:2 伯:3 ハラガアイ:1 比:1 ヘル:1 中:1	安全に冬を過ごすために	暖房器具の取扱いが不慣れな外国出身者を対象とした使用方法・留意点や火災予防等について器具を用意して講義を行った。	石場トスサントス 松原 智文 小町谷真奈 吉澤歩	宮澤富士子(通訳) 春宮シバン(通訳)
21	平成29年12月1日 (金) 10:30～12:30	2	長野市もんぜんぶら座	9 中:6 独:1 比:1 米:1	丁寧な言い方を学ぶ(1)	敬語等の使い方に興味をもってもらいようなことに意識して開催	伊藤 章子	高見澤 彩
22	平成29年12月8日 (金) 10:30～12:30	2	長野市もんぜんぶら座	9 中:6 独:1 比:1 米:1	丁寧な言い方を学ぶ(2)	敬語等の使い方の再確認等も行いながら学習しましたが、敬語等は日常会話ができる者も難しいものだった。	伊藤 章子	高見澤 彩
23	平成29年12月15日 (金) 10:30～12:30	2	長野市もんぜんぶら座	9 中:6 独:1 比:1 米:1	丁寧な言い方を学ぶ(3)	敬語等の使い方について、具体的な事例等に関連付けて学んだ	伊藤 章子	高見澤 彩
24	平成30年3月11日 (日) 13:30～15:30	2	長野市もんぜんぶら座	23 米:1 中国:3 比:1	指導者スキルアップ講座	指導者初心者向けの入門、初級レベルの講座で、外国人にも分かり易い内容で開催された	佐藤 佳子	-
25	平成30年3月4日 (日) 13:30～16:30	3	テクノプラザおかや	21 伯:2 比:1 中:3	「人」と「地域」をつなぐ日本語教室活動	やさしい日本語を使ったコミュニケーションについて学んだ。また、地域の日本語教室主宰者からのPRも行った。	寺島 順子 服部 珠予	-
26	平成30年3月18日 (日) 15:00～18:00	3	松本市鎌田地区公民館	10 中:6 台湾:1	家計管理と資産形成のポイントを知ろう	「0から始めるNISA&iDeCoで資産形成」を受講しながら、自分の資産形成や質問なども発表する形式で進めた。活発な発表が行われた。	北原 知世 佐藤 佳子	-
27	平成29年11月26日 (日) 13:00～16:00	3	松本市松南地区公民館	10 比:10	履歴書の書き方は	・履歴書の書き方やコツを学習 ・自分の履歴書を実際に日本語で作成	ヤップ レイナ	百瀬 ルビーアン 持山 シャロン
28	平成29年12月10日 (日) 13:00～16:00	3	松本市松南地区公民館	8 比:8	面接とは？	・面接時の留意事項などを学ぶ ・実際に面接を各自実践した	持山 シャロン	川上 エバンジェリ ヤップ レイナ
29	平成30年1月21日 (日) 13:00～16:00	3	松本市大手公民館	15 比:15	料理を作りながら日本語を学ぶ	料理(エンパナダ)をみながら作りながら、料理で使う日本語を覚えた。 また、松本市の外国人相談窓口を覚えたり、相談事項などを皆で話し合った。	百瀬 ルビーアン	川上 エバンジェリ ヤップ レイナ
30	平成29年12月10日 (日) 13:30～15:30	2	佐久市交流センター	17 伯:2 中:2 タイ:1 イ:1 日:12	こどもの名前のつけ方から文化の違いを知ろう	タイ人講師が日本語でタイなどのこどもの名前のつけ方などを学び、それぞれの国の名前の由来などを意見交換した	土屋 ラタナ	浅沼 いく
31	平成29年11月19日 (日) 13:00～16:00	3	松本市松南地区公民館	8 中:8	日本でのTPOに合わせた服装について	日本と中国の服装の違いについて日本語で講義を受け、また、参加者同士で話し合った。服装でも日本のぶ	山東 房子	松本 暁鳳 中西 玲名
32	平成29年12月3日 (日) 13:00～16:00	3	松本市松南地区公民館	9 中:9	税金の基礎知識について	納期税金の種類、税率、納期などを調べて参加者と共有した。知らない税金もあり、また、給料からの控除についても学んだが、知らないことが多かった。	中西 玲名	山東 房子 松本 暁鳳
33	平成29年12月17日 (日) 13:00～16:00	3	松本市松南地区公民館	8 中:8	接遇マナー(敬語の使い方など)について	敬語の使い方が間違っていないか心配の者が多いので、何のために敬語を使うのかを学んだ。	松本 暁鳳	范 恭平
34	平成30年1月14日 (日) 13:00～16:00	3	松本市松南地区公民館	10 中:10	冠婚葬祭について	冠婚葬祭時の服装や贈り物などについて学んだ。また、お悔やみの言葉の使い方も学んだ。	古屋 怜子	山東 房子 中西 玲名
35	平成30年1月28日 (日) 13:00～16:00	3	松本市松南地区公民館	10 中:10	いろいろな文書の読み方について	家に送付されてくる役所等の文書や学校配布プリントなど何となくしか分からない文書を持ち寄って、これを講師と共に読み合って、日本語の理解を深めた。	范 恭平	古屋 怜子

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第10回29年11月19日】

身近にある食材を使ってハレの日のパーティーやお弁当にも喜ばれる巻きずしを参加者全員でつくった。桃の花をイメージした巻きずしを巻きながら、マキスの使い方やお寿司の組み立て方など日本の食文化も一緒に学ぶことと、また日本語をもっと学びたいとのきっかけづくりも目的のひとつであった。

最初は難しいそうに感じた参加者も、シンプルな工程から桃の花が現れると感動をし、家でも作ってみたいとの多くの意見が出た。動物など別の飾り巻きずしにもチャレンジしたいとの希望も出るなど、文化と日本語を同時に学べる有意義な教室を開催することができた。



○取組事例②

【第8回 29年9月2日】

子育て世代の外国籍住民などを対象として、中学生時に来日して現在は営業マンとして活躍している者や外国生まれの子どもたちの子育てや進学などで苦労した母親など外国出身者を講師として、講師の体験談の講演や質疑対応などを通じて、参加者の日本での子育ての知識の学習や日本語会話の向上を図った。

直接受講者19名のほかに、地域の指導者・支援者や行政・教育関係者など数多くの関係者にも参加、協力をしていただき、有意義な教室開催となった。

受講者は家族での参加者が多く、特に小中学生をもつ親からは、高校などへの進学に関する事項の心配事などの質問や意見が多く出され、講師の体験に基づく助言や関係者からの助言など活発な意見交換の場にもなり、長時間の開催となった。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・直接的に日本語を学ぶというよりも、日本の文化やルールを楽しみながら日本語を学ぶことが多くの参加者を得られた。
- ・地域の指導者や支援者の協力により開催目標を達成することができた。
- ・短時間の学習で、参加者へのアンケートの日本語が上達したかを回答することは難しのではないかと感じた。成果は後々に現れるのではないと思う。
- ・本事業の周知により、今まで関わりのなかった指導者等からの本事業への参加を得られた。
- ・コーディネーターを配置したことにより、今まで以上の成果をあげられた。

(3) 今後の改善点について

- ・生活者のための日本語教育には教室へ参加してもらうことが重要なため、楽しみながら学習ができるメニューづくりや講師リストなどの作成が必要であるので、地域間のネットワークづくりに着手したい。
 - ・空白地域での開催には、時間がかかることから引き続き支援をしていきたい。
 - ・本事業の取組以外でも新たな言語の指導者の需要が感じられるので、人材の確保や養成が必要となっている。(ベトナム語、ネパール語など)
- 留学生等の活用も検討したい。

＜取組2＞									
取組2	取組の名称		地域を学ぶ日本語教室「防災編」の実施						
	取組の目標		バイリンガル日本語指導者等地域で長年居住している外国籍県民が自治体行事へ参加する機会を活用して、地域住民との交流を得る研修や関連する日本語教室を実施し、自治体等地域社会への関りを促して外国籍住民の生活の幅を広げていく。						
	取組の内容		事業開始時には、外国籍住民の中には地域社会との接触が少なく、その結果生活に関する知識を学ぶ機会が乏しい状況が見られた。このような外国籍住民に対し、自治体や支援団体と連携して、自治体行事特に防災訓練行事への体験機会を活用し、地域生活に役に立つ動きや知識を学んだ。						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		地域社会との交流を通し、地域の一員としての自覚を持つことで、日本語学習のモチベーションを維持することができ、また、閉鎖的になりやすい日本語学習環境を地域に開かれたものとなった。						
	取組による日本語能力の向上		自治体行事への参加により、普段学習する機会のない用語を自らの体験により学習することができた。特に防災訓練への参加により、災害時の行政用語等を学ぶことができた。						
	参加対象者		バイリンガル日本語指導者や来日して間もない者、学習機会に恵まれなかった者等				参加者数 (内 外国人数)	30人 (30 人)	
	広報及び募集方法		行事主催の自治体による広報紙等の周知、長野県、県国際化協会のHP、facebook、広報紙への掲載、バイリンガル指導者及び各国コミュニティでの口コミによる周知など。						
	開催時間数		総時間 8 時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		長野県、松本市、飯田市、中信多文化共生ネットワーク 等						
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		13							17
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名	
1	平成29年6月17日 (土) 10:00～13:15	3	長野県消防学校	6 ブラジル6	防災等を体験しよう	消防学校の一般公開日を利用して、消火器訓練、室内煙体験、AED救命体験、地震体験等の防災体験をし、防災認識を高めた。	-	譜久里 一雄	
2	平成29年10月15日 (日) 13:00～16:00	3	松本市中央公民館(Mウイング)	13 中国13	災害時の避難所体験	長野県等が主催する防災訓練の避難所体験訓練に参加し、講師から避難所の生活等の講義を受けた。	-	中西 玲名 松本 暁鳳	
3	平成29年11月5日 (日) 9:30～12:30	2	飯田市総合学習会館かわらんべ	11 ブラジル11	災害時の避難所体験	長野県等が主催する防災訓練の避難所体験訓練に参加し、講師から避難所の生活等の講義を受けた。	-	脇田 ルリコ ヒロミ フジヤマ エリカ	
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 29年6月17日】

- ・長野県消防学校の一般公開日に合わせて、災害や防災をテーマに展示・体験を補助者(通訳)を介して学んだ。
- ・ブラジル出身者2グループの参加があり、それぞれのグループごとに消火器の使用方法や放水体験、室内の煙が充満した迷路での避難体験、AEDを使用した救命体験、地震体験車での体験などを行い、そのほかに防災グッズ・非常食の見学、試食、購入や展示物の見学などを補助者(通訳)2名を介した通訳や質疑を通じて日本語学習を実施した。
- ・今回は、家族単位での参加者であったので、家族で話し合いながら家族で防災対策などの情報共有ができたと思われる。
- ・AEDの訓練や消火器の使い方など今まで体験できなかったことなので、参加者からはよかったとの意見があった。



○取組事例②

【第2回 29年10月15日】

- ・松本市で開催された長野県及び松本市が主催した外国籍県民のための防災訓練避難所体験訓練に中国出身者に参加してもらい、日本の災害や防災・避難所生活などの現状や注意することなどについて、外国籍住民向けの防災の専門家から一部通訳を介しての指導を受けながら、災害に対する知識と日本語を学んだ。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・(第1回)参加者はそれぞれ家族単位だったので、家での具体的な防災対策等をその都度話し合っており、具体的な防災に対する備えに繋がったと思う。防災に係る専門用語についても、体験しながらなのでスムーズに理解することができたと思う。
なお、参加者からはこのような機会が無かったので、参加してよかったとの感想があった。
- ・(第2回)大部分の参加者は、災害や避難所生活について今まで教えてもらうことが無かったので、大変有意義な教室であり、防災に対する知識を得られ、また、自身の防災に対する意識の向上にもつながることから、参加者は真剣に受講していた。
特に、避難所での生活の大変さについては、参加者全員が感じたことであった。
また、多言語支援センター訓練参加者からの避難者ヒアリングや各種情報の中国語訳掲示物などは、実際の災害時には心強いものとなる。
- ・(第3回)避難所はどこにあり、どのようなものかもわからなかったが、参加してみて災害時には日本人にも教えられるとの意見もあった。

(3) 今後の改善点について

- ・自治体等が主催する防災以外も学べる機会を積極的に活用し、知識と日本語を学べる取組を実施していきたい。(準備や経費等の負担が少ない)
- ・外国籍県民等が参加できる自治体等が主催するイベント等を把握し、情報提供に努める。
- ・ボランティア通訳者の幅広い者からの確保方法等の検討が必要である。(一部の者のみが負担増にならないように)
- ・特に災害時の情報伝達には、やさしい日本語で情報を作成しなければならないことを痛感させられたので、情報発信側へのやさしい日本語の使い方の講習などが必要である。(災害情報の翻訳時には、必ず日本語情報からやさしい日本語情報への翻訳が必要でした。)

＜取組3＞											
取組3	取組の名称		みんな集まれ！意見発表交流会								
	取組の目標		日本語学習者による取り組みの事業成果等を外国籍住民、日本語学習支援者、市町村等に広く周知し、県内の日本語教育推進の機運を高める。								
	取組の内容		多文化共生に関する基調講演を行い、多文化共生社会の取組についての理解や日本語学習意欲を深めるとともに、外国出身である地域支援者、主婦、相談担当者によるパネルディスカッションの場を設けて、生活する上での課題や取組についての発表や意見交換などを行った。 一般県民等の参加も促し、県内で活動する外国籍県民の考えや努力等を知ってもらい、多様性を活かした地域づくりを目指した。								
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
	取組による体制整備		参加者同士のネットワークの構築と更なる活動に向けて再考する機会となった。								
	取組による日本語能力の向上										
	参加対象者		一般県民、外国籍県民等、市町村、県及び市教育委員会、日本語学習支援に関わる団体 等				参加者数 (内 外国人数)		36人 (16 人)		
	広報及び募集方法		県と県国際化協会のHP・facebook、チラシの配布、パイリンガル指導者及び各国コミュニティでの口コミによる周知など。また、会場自治体等に周知を依頼した。								
	開催時間数		総時間 3時間(空白地域 時間)								
	主な連携・協働先		上田市、東御市、長野県、上田市多文化共生推進協会、ゆうあいまるこ日本語教室 等								
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	コロンビア	カナダ	韓国	エルサルバドル	インドネシア	タイ	ブラジル		
		1	2	1	1	1		1	9		
		日本:20									
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名		
1	平成30年3月11日 (日) 13:30～16:30	3	上田市	36	多文化共生社会での暮らしを考える	・基調講演「多文化共生社会での暮らしを考える」 ・パネルディスカッション「多文化共生社会の中での実践者から見た取組と課題について」		堀 永乃	(パネラー) 滝澤リナ 田中琳 木下和美		
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【30年3月11日】

地域での実践者や多文化共生の取組に関心のある県民を対象としたフォーラムを開催し、多文化共生社会の実現に向けた取組の一環とするほか、外国籍等県民の生活知識や日本語の習得の機会の場となった。

なお、県レベルでの多文化共生フォーラム等の開催実績が少ない地域での開催ができた。

○基調講演「多文化共生社会での暮らしを考える」講演:堀 永乃 先生

○パネルディスカッション「多文化共生社会の中での実践者からみた取組と課題について」

コーディネーター:堀 永乃先生

パネラー:滝澤リケルさん、田中琳さん、木下リジュア和美さん



(2) 目標の達成状況・成果

ネームバリューのある講師をお願いしたことから、募集時から地域で活動している皆様からの反応もあり一定の参加者を得ることができた。多文化共生についての講演やパネリストからの発表は、参加者からの意見発表などもあり好評であった。

空白地域での開催はできなかったが当協会主催でのフォーラム等の未実施地域で開催できたことは、今までは地理的などの理由によって参加が困難であった者などの呼びこみに繋がったことや、このような催しでは縁が少なかった地元の支援団体、自治体、指導者などとの連携が図れたことも成果のひとつであった。

(3) 今後の改善点について

・開催地域の皆様のご協力があり開催できたが、今後は全県規模での取組を目指して、各地域での協力を得て実施していきたい。

・今回は、講師の専門分野のひとつである「これからの介護」についての講義希望が多く寄せられた。今後のテーマについては、幅広い皆様からの意見等を把握し、旬のテーマで企画をしていきたい。(ただし、一般の者向けの多文化共生の理解を得られるような取り組みも必要とまだ必要と感じている。)

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

(1) 本県においては、平成26年より3年に渡り、県が外国籍県民等の自立を支援するとともに日本語能力の向上を図るため、外国出身者や地域の外国籍県民に対して、生活に必要な日本語表現や日本の制度・習慣を伝えるためのバイリンガル指導者の育成に取り組んできたところ、その数は90名余に及んでいる。今後は長野県国際化協会が、バイリンガル日本語指導者や地域の学習支援者等の協力、支援を得ながら、日本語学習の機会の少なかった住民を掘り起し、受講者のすそ野を広げる活動の継続を目指す。

(2) 生活上の会話が可能となった外国人であっても、近隣との交流が疎遠になっている場合が多々見られており、地域住民として今後生活するためには、彼らが地域社会へ溶け込んでいくことが重要である。長野県国際化協会は、地域支援者等の協力を得ながら、地域社会との交流機会の創出を図り、一層生活に密着した日本語を身に着ける機会の設定を目指す。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・取組1について、バイリンガル指導者や地域の支援者等の協力を得ながら、教室回数、開催時間数及び参加者数について目標を大幅に上回る実績を達成することができた。これらの開催については、地域の指導者や支援団体、自治体等の協力がなければ目標達成は困難であったと考えられる。

・事業周知によって教室を開催したい旨の問合せがあり、今まで開催したことなかった地域での開催につながった事例があった。

・取組2については初めての取組であったが、参加者からも好評であり今後も同様な参加型のイベントの活用必要性を感じた。

・取組3について、参加者からも好評を得られたが、開催時期が遅くなったことが反省点のひとつであり、今後の開催時期について検討を要する。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

・本事業の実施にあたっては、地域の指導者養成講座修了者をはじめとする地域の日本語指導者、多文化共生に取り組む地域支援団体、地元市町村、長野県等の協力が不可欠であったので、事業の周知のほかに、これらの者にコーディネーター等と協働して働き掛け等も行った。指導者等とは以前からの良好な関係の積み重ねがあり、連携等も円滑に行え、本事業の目標等を達成することができた。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・本事業全体の周知は、HP、Facebook、メルマガ等への掲載、チラシ配布、地域支援団体や中核指導者への依頼などによって行った。

・各教室の参加者募集は、教室主宰者等のネットワークの活用が大きかったが、個別の周知としてHP、Facebook等やチラシ配布等を行った。

また、協会職員のネットワークを活かした周知も積極的に行った。

・コーディネーターが関わった教室では、コーディネーターのネットワークの活用なども積極的に行った。

・取組3については、取組結果をHP、Facebook等で発信した。

・今後作成するANPIニュース(広報紙)に実績等を掲載予定している。

(5) 改善点、今後の課題について

・事業実施にあたって、従来からの地域の中核的な指導者、支援者等の負担増の意見もあり、新たな中核的に活動できる者の確保、養成等が必要と思われるので、長野県等と連携して検討していきたい。

・地域の日本語指導等を行っている団体等間のネットワークが不十分のため、県の中核団体として本協会が既存の団体検索システム等を活用してネットワーク化の推進等を図っていきたい。

・空白地域の解消に向けては他事業も含めて解消の取組を行ったが、地域の基盤づくりの必要性などから単年度ですぐに成果が得られないため、複数年継続した取り組みが必要と思われる。

(6) その他参考資料